



ヒロセ電機株式会社

2024 年 3 月期 決算説明会

2024 年 5 月 8 日

イベント概要

[企業名] ヒロセ電機株式会社

[企業 ID] 6806

[イベント言語] JPN

[イベント種類] 決算説明会

[イベント名] 2024 年 3 月期 決算説明会

[決算期] 2024 年度 通期

[日程] 2024 年 5 月 8 日

[開催場所] インターネット配信

[登壇者] 4 名

代表取締役社長	石井 和徳（以下、石井）
取締役 管理本部 本部長	鎌形 伸 （以下、鎌形）
広報・IR 室 室長	山田 理絵（以下、山田）
広報・IR 室	芦田 智史（以下、芦田）

登壇

山田：それでは定刻になりましたので、ただいまよりヒロセ電機、決算説明会を開催いたします。

本日はご参加いただきありがとうございます。弊社側、社長の石井、取締役管理本部長の鎌形、進行を務めます私、広報・IR室、山田および芦田でございます。今回もオンライン開催になりますが、よろしくお願いいたします。

まず冒頭、本日の説明をさせていただきます。本日の決算説明会資料ですが、ご参加の画面上のリンクから PDF ファイルをダウンロードいただき、お手元でご覧ください。

同様に、昨日 5 月 7 日に東証にて開示しております決算短信もリンクがございます。株主還元方針の変更について等、その他の開示資料については、弊社 Web サイトの IR ページに遷移していただき、ご覧いただけるようになっております。

ご説明の際にはページ番号を申し上げますので、ページ送りは恐れ入りますが各自でお願いいたします。

次に、質疑のところは、電話回線より参加者様よりご発言いただき弊社より回答するという、対面と同様の双方向での方式をとってございます。ご質問のある方は、受付順にこちらからご案内させていただきますので、順番にご発言いただくよう、ご協力のほどお願い申し上げます。

まず、資料に基づきまして私より 23 年度の決算のご説明、24 年度の業績予想について、および予定されております役員人事についてご説明申し上げます。その後、24 年度版としてアップデートいたしました中長期成長戦略について、石井と鎌形よりご説明申し上げます。残り時間で先ほどのとおりご質問をお受けいたします。

閉会は 11 時 30 分を予定しておりますが、ご質問が続くようでしたら 45 分までは延長し、回答させていただきます。ご参加者様のご協力をお願いいたします。

業績サマリー （2023年度 2023年4月～2024年3月）

- 2023年度は、自動車市場向け及びスマートフォン市場向けが堅調な伸びとなりましたが、一般産機市場向け及びコンシューマ市場向けは厳しい市況が続き、全体では対前年マイナスという結果となりました。対前年比、受注 -4.8%、売上 -9.7%、営業利益 -27.2%。営業利益率は 20.6%

(金額：億円)

	FY2022			2023年度			前年比
	上期 (22.4-9)	下期 (22.10-23.3)	累計 (22.4-23.3)	上期 (23.4-9)	下期 (23.10-24.3)	累計 (23.4-24.3)	2023累計 / 2022累計
受注	915.2	685.0	1,600.2	754.4	769.6	1,524.0	-4.8%
売上	947.0	885.2	1,832.2	829.1	826.0	1,655.1	-9.7%
営業利益	271.7	195.8	467.5	171.9	168.3	340.2	-27.2%
営業利益率	28.7%	22.1%	25.5%	20.7%	20.4%	20.6%	-4.9pt

© 2024 HORISE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

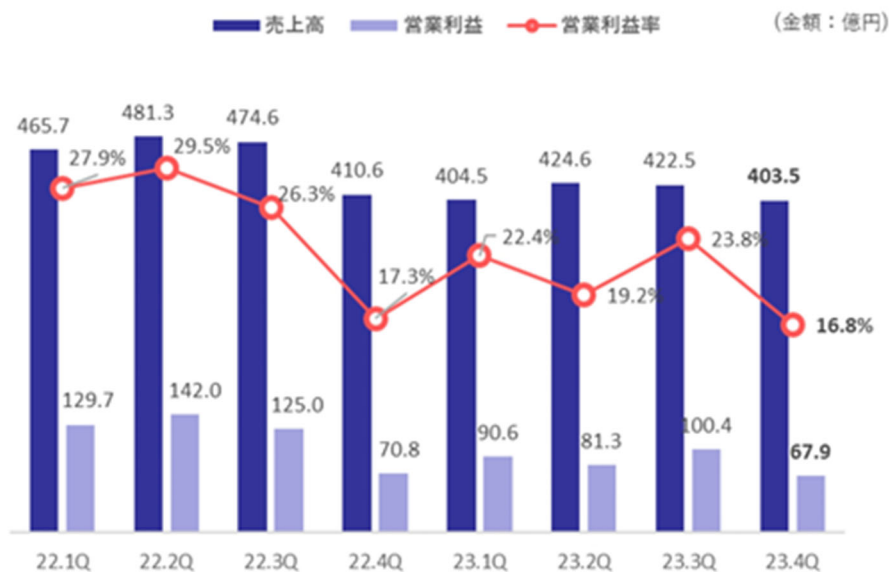
3

それでは、まず3ページからお願いいたします。業績サマリーです。

2023年度は、自動車市場向け、およびスマートフォン市場向けが堅調な伸びとなりましたが、一般産機市場向け、およびコンシューマ市場向けは厳しい市況が続き、全体では対前年マイナスという結果となりました。

売上マイナス9.7%、営業利益はマイナス27.2%、営業利益率は20.6%です。受注ですが、第3四半期と比較すると増加いたしましたが、前年同期比としてはマイナス4.8%となっております。

売上・営業利益推移 (2022年度1Q～2023年度4Q / ヒロセ連結ベース)



4

続きまして、4 ページ、四半期ごとの売上・利益の推移グラフになります。

23 年度第 4 四半期は、売上 403.5 億円、営業利益 67.9 億円、営業利益率は 16.8%と、弊社水準としては低い結果でございました。

2023年度 連結決算概要

	2022年度 (2023/3月期)	2023年度 (2024/3月期)	増減額 (対前年同期比)	増減比 (対前年同期比)
売上高	1,832.2	1,655.1	-177.1	-9.7%
売上原価率	51.9%	56.2%	+4.3pt	
販売・管理費比率	22.3%	22.5%	+0.2pt	
営業利益	467.5	340.2	-127.3	-27.2%
営業利益率	25.5%	20.6%	-4.9pt	
税引前利益	485.9	387.6	-98.3	-20.2%
税引前利益率	26.5%	23.4%	-3.1pt	
当期利益	346.5	264.8	-81.7	-23.6%
当期利益率	18.9%	16.0%	-2.9pt	
総資産残高	4,013.6	4,034.5		
自己資本比率	87.2%	90.3%		
1株当たり 当期利益	1,002.04円	772.38円		

	2022年度累計	2023年度累計
1US\$	135.47円	144.62円
1€	140.97円	156.80円
100ウォン	10.37円	10.97円

© 2024 HIRONO ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

5

そして 5 ページになります。こちら決算概要になります。

2023 年度売上は 1,655.1 億円、前年比がマイナス 9.7%、営業利益は 340.2 億円、前年比ではマイナス 27.2%、営業利益率は 20.6%、税前利益が 387.6 億円、当期利益が 264.8 億円、総資産残高 4,034.5 億円、自己資本比率は 90.3%、1 株当たり当期利益は 772.38 円という結果でした。

為替の実績、右下にございます。ドル 144.62 円、ユーロ 156.8 円、100 ウォン 10.97 円という結果でございます。



2023年度 対前年同期主要増減

売上高

177.1 億円 減少 (1,832.2億円 → 1,655.1億円)

一般産機向け : -186億円
コンシューマ・モバイル機器向け : -47億円

売上原価率

4.3 pt 悪化 (51.9% → 56.2%)

変動費率 : 38.1% → 39.4%
減価償却費率 : 7.3% → 8.2%
労務費率 : 6.7% → 7.8%

販売・管理費比率

0.2 pt 悪化 (22.3% → 22.5%)

409.2億円 → 372.4億円 (-36.8億円)

金融収益・費用

29.0億円 良化 (+18.4億円 → +47.4億円)

為替差損益 : -1.0億円 → +9.1億円
受取利息等 : +16.5億円 → +26.3億円

© 2024 HORISE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

6

続いて、6 ページに対前年の主要増減をまとめてございます。

売上減 177.1 億円のうち、一般産機向け市場の売上がマイナス 186 億円、コンシューマ・モバイル機器向けでマイナス 47 億円という結果でした。

売上原価率は、昨年の 51.9%から 4.3 ポイント落ちて 56.2%でした。

変動費率ですが、各種の値上げ傾向によるコスト増や生産減による稼働率低下も含め、1.3 ポイント上昇、悪化となりました。

固定費側では、減価償却費は金額では横ばいながらも、率では 0.9 ポイントの上昇、労務費も微増で 1.1 ポイントの上昇、悪化要因となりました。

販管費は、物流費の減少などで金額は 36.8 億円のマイナスと大きく減少しましたが、率としては 0.2 ポイントの悪化となり、販管費率 22.5%という結果でございました。

金融収支は、円安による為替差益、世界的な金利上昇による受取利息の増加などで、29 億円の良化という結果です。



2023年度 対前年同期 変動分析

(金額：億円)

	売上	営業利益	営業利益率	税前利益	税前利益率
2022年度 実績	1,832.2	467.5	25.5%	485.9	26.5%
為替影響	91.6	48.7		59.6	
人件費減		10.9		10.9	
運賃荷造費減		19.8		19.8	
固定資産除却損増		-5.1		-5.1	
原価率悪化		-40.4		-40.4	
物量減他	-268.7	-161.2		-143.1	
変動額計	-177.1	-127.3		-98.3	
2023年度 実績	1,655.1	340.2	20.6%	387.6	23.4%

© 2024 HORISE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

7

続いて、7 ページをお願いいたします。対前年度比の変動分析になります。

為替の影響は、売上ではプラス 91.6 億、営業利益ではプラス 48.7 億円でした。人件費減にて 10.9 億円プラス、運賃荷造費減により 19.8 億円の良化、固定資産の除却損は 5.1 億円増加しております。原価率悪化として 40.4 億円の影響、物量減他で営業利益は 161.2 億円のマイナスとしております。

連結貸借対照表（１）

					(金額：億円)
科目		2023/3末	2024/3末	増減額	備考
資 産	現金及び 現金同等物	880.3	903.4	+23.1	定期預金等より振替 +187、 配当金支払△172、自社株買い △100 支払サイト短縮等による買掛金支払増 △91
	営業債権及び その他の債権	419.3	394.2	-25.1	主に国内販売減による売掛金減少
	棚卸資産	277.3	243.6	-33.7	実質在庫△48、為替による影響 +14
	その他金融資産	1,546.8	1,422.0	-124.8	郡山新工場等の投資に充てるため減少
	有形固定資産	638.0	809.5	+171.5	郡山新工場 +64、TATセンター+11 ヒロセコリア建物 +29
	使用権資産	52.8	56.3	+3.5	
	その他	199.1	205.5	+6.4	無形資産増 +8
合 計		4,013.6	4,034.5	+20.9	
現預金合計		1,854.0	1,726.3	-127.7	

© 2024 HOKURIC ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

8

続きまして、8 ページ、BS 資産の部になります。

現金は定期預金からの振替でプラス 187 億円、配当金 172 億と自社株買い等によりマイナスがありますが、トータルではプラス 23.1 億円となっております。

棚卸資産はマイナス 33.7 億円の結果となりました。円安による影響がプラス 14 億円発生しており、実質的にはマイナス 48 億円減少となります。

有形固定資産は、郡山の新工場、東北アドバンスト・テクノロジーセンター、ヒロセコリアへの建物投資で増加しております。

連結貸借対照表（2）

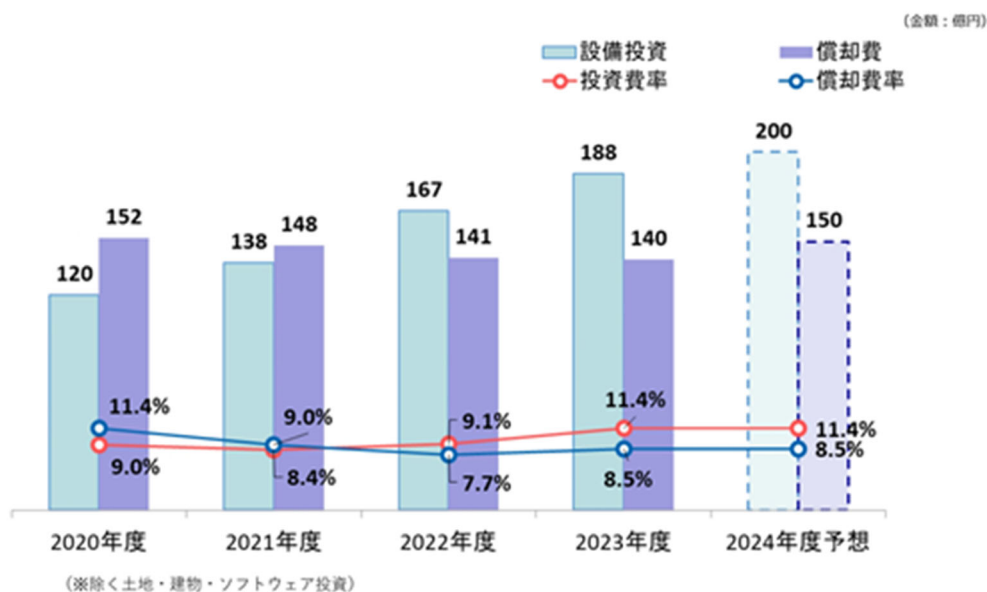
	科目	2023/3末	2024/3末	増減額	備考
負債	支払債務及びその他の債務	208.0	117.3	-90.7	国内支払サイト短縮
	リース負債	54.8	59.3	+4.5	
	未払法人税	82.1	25.0	-57.1	国内利益減のため
	その他	170.1	191.2	+21.1	繰延税金負債+32
	合計	515.0	392.8	-122.2	
純資産	資本金及び資本剰余金	206.0	205.9	-0.1	
	利益剰余金	3,452.0	3,408.1	-43.9	当期純利益 +265 配当金支払い △172 自己株式消却 △139
	自己株式	-398.4	-358.1	+40.3	自己株式消却 +139 自己株買い △100
	その他	239.0	385.8	+146.8	為替換算調整 +137
	合計	3,498.5	3,641.7	+143.1	
	負債及び純資産合計	4,013.6	4,034.5	+20.9	

9

続いて、9 ページは負債と純資産の部になります。

支払債務は、国内支払サイト短縮の影響が出ております。純資産の部、自己株取得と前期取得分の自己株消却があります。それから、その他のところ、円安影響による為替換算調整として、プラス137 億円が入っております。

設備投資・償却費 推移(連結ベース)



© 2024 HIRONO ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

10

続きまして 10 ページ、設備投資と償却費の推移になります。

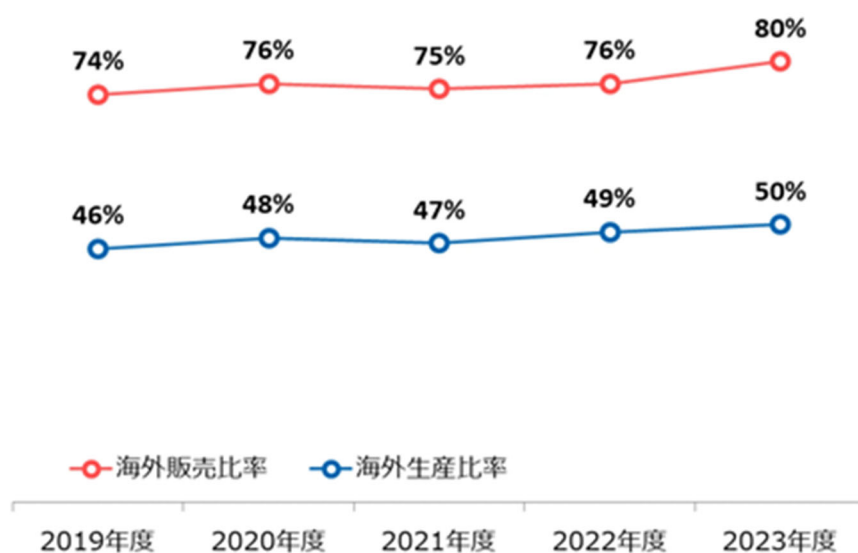
23 年度累計の設備投資額は 188 億円、償却は 140 億円でした。3Q 発表時の予想では、先への仕込みとして生産の準備を強化するということで、設備投資を 180 億円から 190 億円に上げておりましたが、若干届かずという結果です。

償却は 155 億円から 150 億円に予想を下げておりましたが、最終的には 140 億円と、さらに下がる結果となりました。

24 年度の予想は、設備投資として 200 億円、償却を 150 億円と置きます。こちら資料に記載はございませんが、研究開発費は 114 億円という実績でした。研究開発費の 24 年度予想は 120 億円といたします。



海外生産比率・販売比率



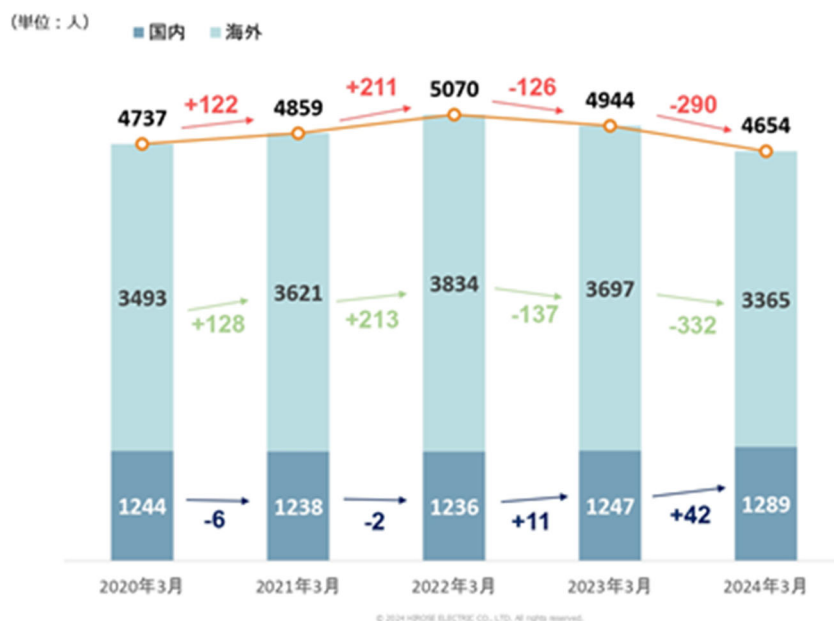
© 2024 HORISE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

11

続いて、11 ページをお願いいたします。海外販売比率と海外生産比率の推移になります。

海外販売比率は 80%、海外生産比率は 50%となっております。23 年度は、国内産機向け不振の影響で海外比率が上がった結果と見ております。

従業員数 推移 (有報ベース)

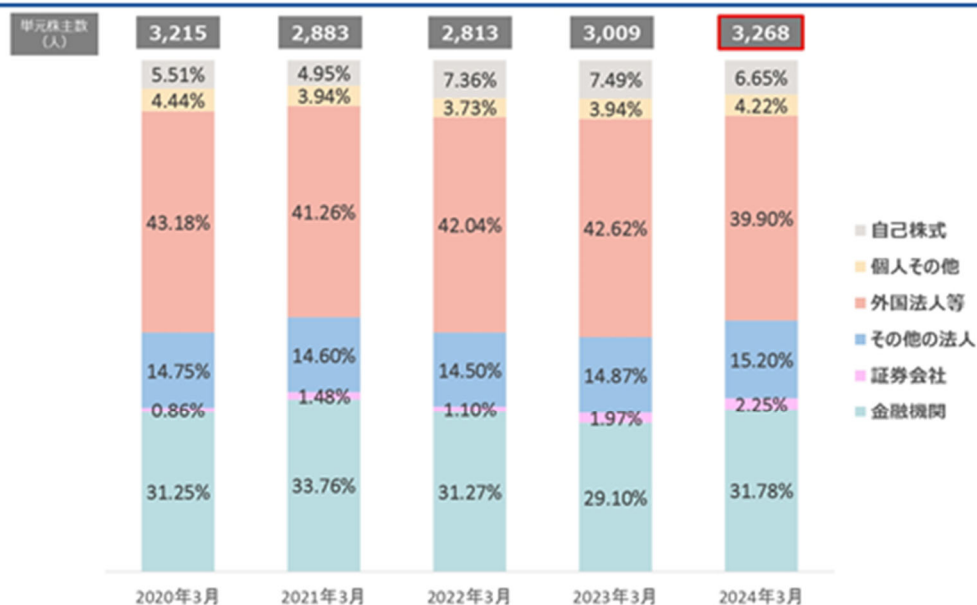


12

続きまして 12 ページ、従業員数の推移になります。

2023 年度は、海外でマイナス 332 名と人員減があり、合計は 4,654 人となりました。この海外分は現地工場の製造ラインで働く従業員が大半であり、物量減とともに減少いたしました。

株式分布推移



13

続いて 13 ページ、株式分布になります。

2023 年度の結果は、単元株主数が増加し 3,268 名になりました。構成比としては、前年度と比較して、グラフの上から三つ目に示されている外国法人比率が若干下がったという結果です。

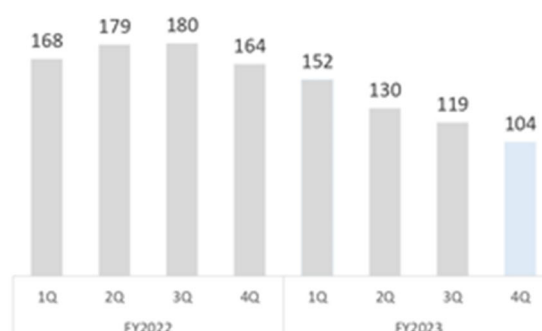
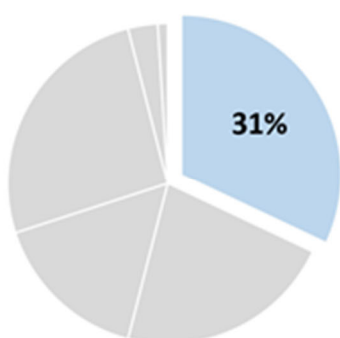


分野別売上 一般産機

2022年度					2023年度				前年同期比
上期	3Q	4Q	累計		上期	3Q	4Q	累計	2023累計 / 2022累計
売上高	347	180	164	691	282	119	104	505	-27%

● 2023年度 累計 構成比

● 四半期別売上推移



■ 受注の底は3Qであったが、4Qへの結果反映には至らず

© 2024 HOKUSAI ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

14

続きまして、14 ページをお願いいたします。ここからは分野別の結果となります。

最初のスライドですが、一般産機向けの売上推移になります。23 年度第 4 四半期の売上は 104 億円、累計で 505 億円、前年同期比ではマイナス 27%でした。

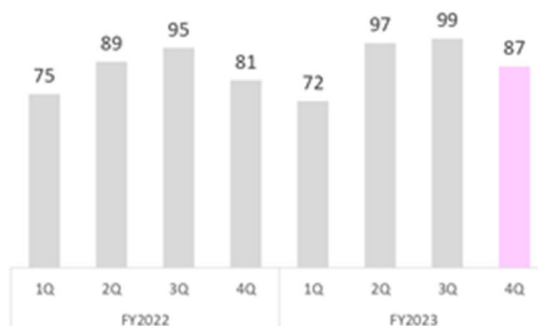
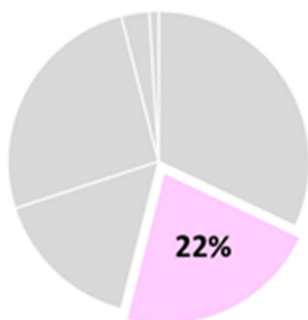
分野構成比としては、3Q が 33%であったところ、31%と 2 ポイント低くなっております。受注状況としては 3Q が底であったと言えますが、売上としては 4Q の結果にはまだ反映されていない状態です。

分野別売上 スマートフォン・携帯端末

2022年度					2023年度				(金額：億円)
上期	3Q	4Q	累計		上期	3Q	4Q	累計	前年同期比
売上高	164	95	81	340	169	99	87	355	2023累計 /2022累計
									+4%

● 2023年度 累計 構成比

● 四半期別売上推移



■ 季節性で4Qは下がったものの、中国の回復もあり今期全体を通じて高い水準で推移。

© 2024 HORISE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

15

続いて15ページ、スマートフォン・携帯端末向けになります。

23年度売上は355億円と、前年同期比でプラス4%という実績です。

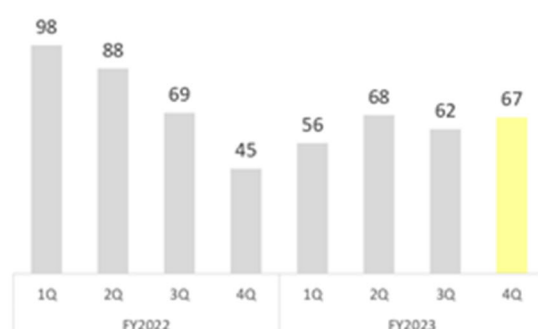
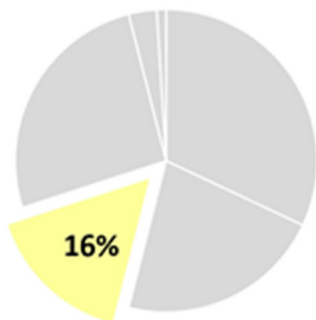
季節性での増減がある分野ですので4Qは3Qより下がったものの、前年同期と比較してもプラスになっており、23年度全体を通じて高い水準であったと言えます。こちらの要因としては中国市場の回復が含まれてございます。

分野別売上 コンシューマ・モバイル機器

2022年度					2023年度				(金額：億円)
上期	3Q	4Q	累計		上期	3Q	4Q	累計	前年同期比
売上高	186	69	45	300	124	62	67	253	2023累計 /2022累計
									-16%

● 2023年度 累計 構成比

● 四半期別売上推移



■ 季節性で4Qは下がるセグメントでありながら、ようやく回復が見られ3Q対比アップ

© 2024 HORISE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

16

続きまして 16 ページ、コンシューマ・モバイル機器向けになります。

23 年度は 253 億円、前年同期比マイナス 16%という結果です。季節性で 4Q は 3Q に対して下がるのは通常のトレンドであるところ、逆に上昇しており、低迷していた市場によりやく回復が見えてきたと言えるかと思っております。

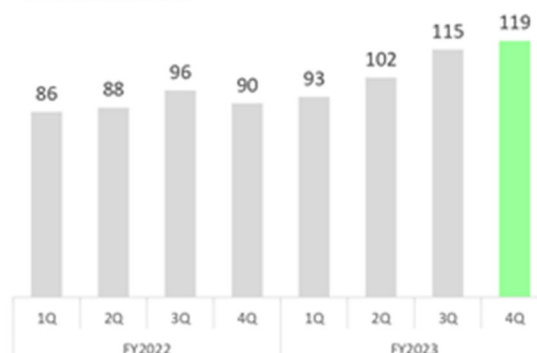
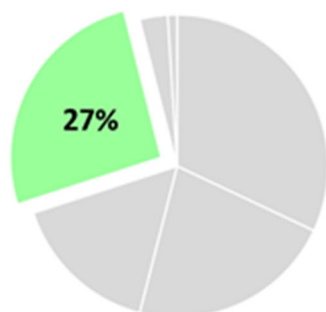


分野別売上 自動車・モビリティ関連

2022年度					2023年度				(金額：億円)
上期	3Q	4Q	累計		上期	3Q	4Q	累計	前年同期比
売上高	174	96	90	360	195	115	119	429	+19%

● 2023年度 累計 構成比

● 四半期別売上推移



■ 顧客基盤の拡大や製品ラインナップの充実を背景に、引き続き堅調に推移

© 2024 HROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

17

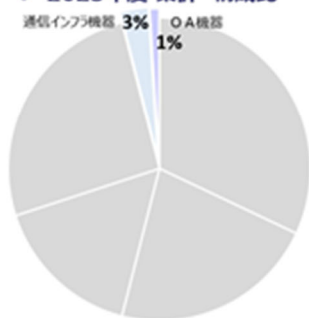
続いて 17 ページ、自動車・モビリティ関連向けです。

3Q の 115 億円から 119 億円と伸ばして累計で 429 億円、前年同期比プラス 19%と、引続き過去最高を更新しております。構成比としては 3Q が 26%であったところ、1 ポイント上昇の 27%という結果でございました。

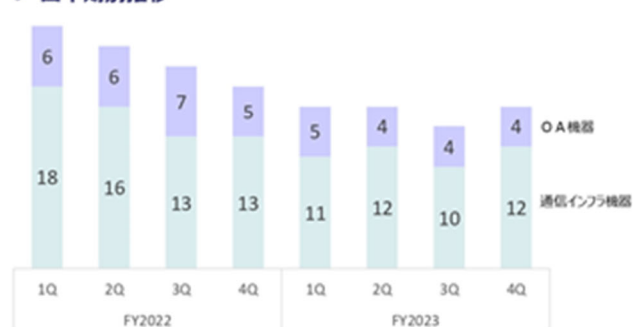
分野別売上 通信インフラ機器 / OA機器

(金額：億円)									
	2022年度				2023年度				前年同期比
	上期	3Q	4Q	3Q累計	上期	3Q	4Q	累計	2023累計 / 2022累計
通信インフラ機器	34	13	13	60	23	10	12	45	-25%
OA機器 (事務機)	12	7	5	24	9	4	4	17	-29%

● 2023年度 累計 構成比



● 四半期別推移



© 2024 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

18

18 ページは、通信インフラ機器向けと事務機器向けの売上実績・推移になります。こちらは特にコメントはございません。

2024年度 業績予想 (連結)

	2023年度 (2024/3月期) 実績		2024年度 (2025/3月期) 予想		第2四半期累計 対前年実績		通期 対前年実績	
	第2四半期 累計	通期	第2四半期 累計	通期	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	829.1	1,655.1	830.0	1,760.0	+0.9	+0.1%	+104.9	+6.3%
売上原価率	55.6%	56.2%	56.2%	55.8%				
営業利益	171.9	340.2	160.0	360.0	-11.9	-6.9%	+19.8	+5.8%
(%)	20.7%	20.6%	19.3%	20.5%				
税前利益	196.8	387.6	170.0	390.0	-26.8	-13.6%	+2.4	+0.6%
(%)	23.7%	23.4%	20.5%	22.2%				
当期利益	126.0	264.8	120.0	280.0	-6.0	-4.7%	+15.2	+5.7%
(%)	15.2%	16.0%	14.5%	15.9%				
一株当たり 当期利益	—	772.38円	—	827.65円	【為替レート】			
一株当たり配当	220円	440円	245円	490円	1US\$	144.62円	2023年度実績	2024年度予想
連結配当性向	—	57.0%	—	59.2%	1€	156.80円	143.00円	155.00円
					100ウォン	10.97円	10.80円	

© 2024 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

19

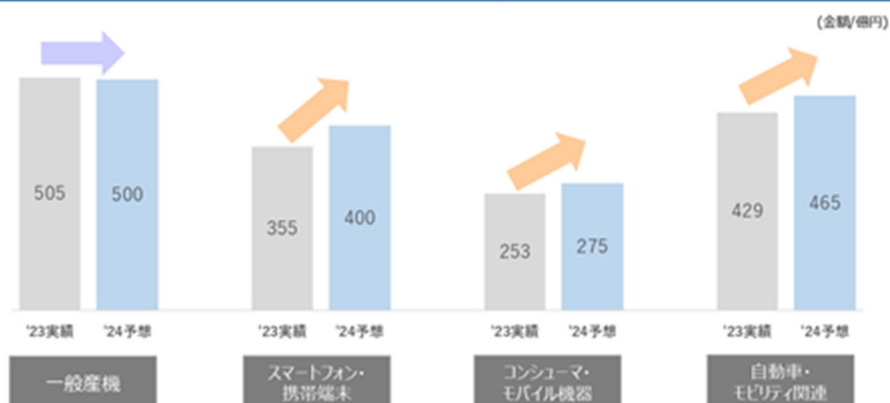
次、19 ページより 24 年度の業績予想となっております。右下にある為替を前提としたものとなっております。1 ドル 143 円、1 ユーロ 155 円、100 ウォンが 10.8 円の前提です。

売上高は 1,760 億円、これは 23 年度比プラス 6.3%です。営業利益は 360 億円、こちら対前年比プラス 5.8%でございます。営業利益率は 20.5%を予想してございます。税前利益は 390 億円、当期利益 280 億円で予想しております。

1 株当たりの配当につきましては、予想として 490 円とさせていただいており、後ほど、このベースとなる新たな資本政策について、鎌形よりご説明申し上げます。



分野別 年間売上予想 (概数)



2024年度 年間伸び率予想

- | | 前年度比 |
|-----------------|------|
| ● 一般産機 | -1% |
| ● スマホ・携帯端末 | +13% |
| ● コンシューマ・モバイル機器 | +9% |
| ● 自動車・モビリティ関連 | +8% |

© 2024 HORNBEE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

20

20 ページは分野別の年間売上予想のイメージでございます。

まず一般産機ですが、この分野は市中在庫の影響がまだ残っており、今期早い段階での回復は現時点期待できませんが、下期より反転回復に向かいたいと考えており、年間では 500 億円とマイナス 1%の横ばいと予想しております。

スマートフォン・携帯端末の分野は 400 億円のプラス 13%と、今期は伸びる方向で予想しております。こちらは小型製品の製品力を背景としたシェアアップによる期待が含まれております。

コンシューマ・モバイル機器は 23 年度 253 億円に対し、257 億円とプラス 9%での予想です。

自動車・モビリティ関連は、465 億円のプラス 8%で堅調に伸ばす予想としております。

以上が業績に係るご説明でございました。

取締役（監査等委員である取締役を除く）		
代表取締役社長		石井 和徳（再任）
専務取締役	管理本部 本部長	鎌形 伸（昇任）
取締役	営業本部 本部長	佐藤 博志（再任）
取締役	技術本部 本部長	小原 秀（再任）
取締役	製作本部 本部長	郡司 吉広（新任）
取締役	ヒロセコリア株式会社 代表理事社長	李 相煒（再任）
社外取締役		堀田 健介（再任）
社外取締役		元永 徹司（再任）
社外取締役		西松 正記（再任）
社外取締役		坂田 誠二（再任）
監査等委員である取締役		
取締役（常勤監査等委員）		上田 昌利
社外取締役（監査等委員）		三浦 健太郎
社外取締役（監査等委員）		荒木 由季子
社外取締役（監査等委員）		高嶋 健司

※ 取締役 桐谷 幸雄は退任

（社外取締役比率 50%）

© 2024 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

21

私からは最後のスライドにて、6月21日の株主総会での賛成をもって異動となる予定の役員人事をご紹介します。次のページをお願いいたします。

変更部分は黄色いところがございます。鎌形が管理本部本部長は変わらず、取締役から専務取締役に昇任となります。製作本部本部長で取締役の桐谷が退任となり、同じく製作本部にて執行役員であった郡司が新たに取締役に着任する予定となっております。

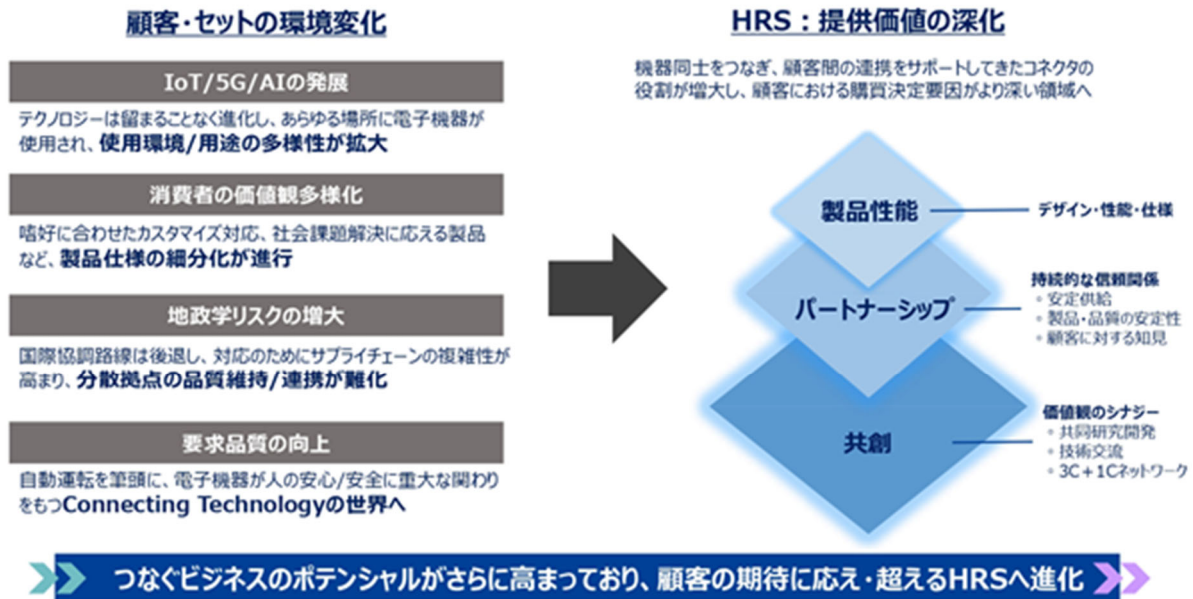
私からは以上となります。

次に、社長の石井と取締役の鎌形より、2024年中長期成長戦略についてご説明申し上げます。石井社長、お願いいたします。

石井：皆さん、おはようございます。ヒロセの石井でございます。平素のヒロセビジネスへのご支援、ご指導、ありがとうございます。

相対的には全く不足感のある業績報告となりましたが、先に向けては明らかに仕掛け・対応力の強化が進んでいると感じています。したがって、24年度は25年度以降の成長に向けて正念場のタイミングかと考えています。その面で、これから発表させていただく内容について、ぜひ皆さんとしっかりやり取りを通して、より充実した内容にしたいと思っております。

それでは、私からスライドに沿いまして中期戦略2024年度バージョンの説明をさせていただきます。



2

最初に、スライドの2ページでございます。まずはヒロセの取り巻くマクロ環境と価値観の変化についてまとめているスライドでございます。

左サイドが顧客・セットの環境変化であります。一つ目に挙げているところが、IoT/5G/AIの発展と述べておりますけども、特にはAIの出現、進展であります。これに伴って私どもの電子機器があらゆる状態において使用環境、使用用途の多様性が拡大しているという認識でございます。現在、私どものお客様は、AIスマホ、AIノートブック、AIサーバー等々の新製品の仕込みを強化している状況にあります。

それから二つ目に挙げているのは、消費者マインドの多様化であります。

それと三つ目が、地政学リスクの継続、増大と認識しております。

それから最後に挙げているのが、要求品質の向上と書いてありますが、要は私たちのコネクティングテクノロジーの中では今後、フリーズしましたということが許されない世界になってくるのではないかと推定をしております。

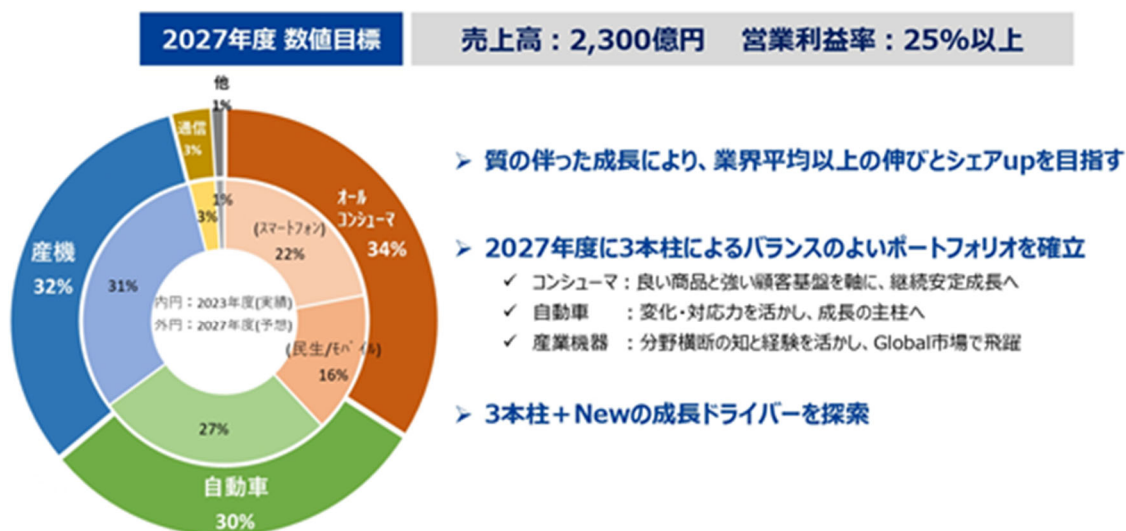
これらの左サイドの環境変化に伴って、右サイド、ヒロセへ求められる価値観ということで述べておりますけども、まず私どものベースは製品性能となりますので、ここをベースにしてお客様とより信頼関係を構築すると。お客様と言いながらも、協力会社、それから異業種等々の協働メーカーというか、関係者に対しての信頼関係を構築していくと。これらの関係のところから、さらに共創の世界が生まれると。ここがヒロセの未来にリンクするイメージでございます。

総じて言えば、私たちのつなぐビジネスのポテンシャルがさらに高まっていると感じております。いつもながら申し上げることでございますが、ヒロセは顧客の期待に応える、お客様の期待を超える企業に進化していきたいと思っております。

中期経営目標



サプライチェーンの混乱期(2020-2023年度)を脱し、新たな成長局面へ移行



© 2024 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

3

次のスライド、3ページでございます。

これ、いつもの分野構成率をパイチャートにしているスライドでございます。パイチャートのアウトサイドを見ていただくと、2027年度の予測が出ていますわけでございますけれども、やっと私どもの目指しているバランスの良いポートフォリオが27年目途に構築できるかなと思っております。つまりコンシューマで、このオレンジのゾーン34%、自動車で30%、産機で32%、いよいよ27年度に私どもの描いてるポートフォリオの実現に近くなってきたかなと思っております。

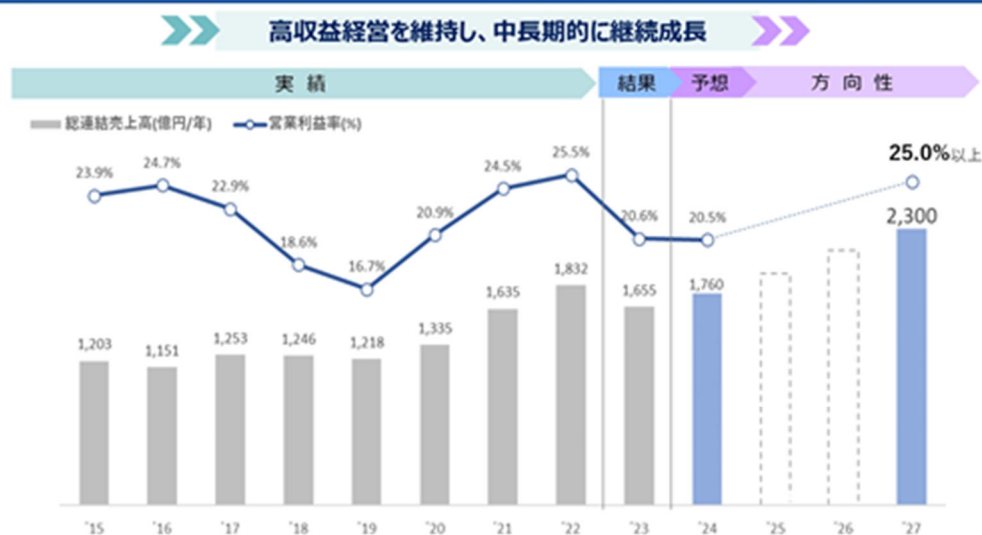
真ん中で少し各分野ごとに私どもの現状および今後についてのショートメッセージ的なところを入れてありますけれども、コンシューマについては、私ども、幸いなことに良い商品、それから良いお客様を持っておりますので、ここでの継続安定成長ということになるかなと思います。

それから自動車ですね。このパイチャートに表れているように、変化対応力のところがキャッチングが少しできておりますので、完全に成長の支柱になっていくということでございます。

それから産機でございます。ここはヒロセの強みであります分野横断の知と経験を生かすことによって、さらにグローバル市場での成長が描けるかなと考えております。

左サイドのパイチャートは既存事業に対しての展開でございますので、このパイチャート+Newの成長ドライバーを探索するのが、ヒロセの中計のキーポイントかなと思っております。

業績成長イメージ



コロナ・バブルによる反動は底打ち 新たな成長シナリオを描く

© 2024 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

4

次のスライド、ページの4をお願いいたします。

これもいつも掲げている業績成長イメージでございます。23年度、真ん中のバー、見ていただくように全く不足の数字でございますけども、24年度1,760億、先ほど山田が申し上げた数値でございますが、ここに1回底打ち、浮上をして、中期的には27年度で2,300億、利益率25%を目指すということで、24年度を起点に新たな成長シナリオを描くイメージでの中計になるかなと思います。



次のスライドをお願いいたします。5 ページでございます。

これは中計の全体・分野戦略イメージですね。基本的には、例年とここは変わっておりません。

各分野・機能の取り組み (1/2)

オールコンシューマ市場	自動車市場	産機市場
競争力の維持・強化 マイクロコネクタのリーディングカンパニーとして、商品力・モノづくり力強化 BM55シリーズ ・世界最小クラス ・電源信号複合 ・フルアーマード ・マイクロ コネクタ CES® 2023 Innovation Awards Honoree 受賞 ヒロセコリア増強 マイクロコネクタの開発・生産拠点であるヒロセコリア増強	顧客との信頼関係を深化 新たなクルマづくりを目指す顧客に対し、企画・開発段階からパートナーシップ構築 協賛会 加入 2024年4月に協賛会への加入が認められ、企業の垣根を越えて知見を共有し、価値貢献を深化 ・協賛会：トヨタ自動車株式会社とサプライヤーをはじめとした会員企業によるパートナーシップ組織 新郡山工場の建設・移転 2024年4月竣工 自動車・産機分野の成長のために、製造技術・生産能力向上、BCP強化を実施 2024年5月中旬以降、順次稼働開始	多様な企業・団体との連携 裾野が広い市場において、多様な顧客に価値提供すべく、企業・団体と協業強化 IXシリーズ イーサネット接続で幅広く普及している既存のRJ-45市場に、新しい標準規格の基幹技術を提供 ・Harting社と共同開発 ・パートナー順次拡大 ・徹底した小型化と堅牢性 *従来比 体積75%削減 顧客 標準化団体 PROFINET CC-Link GigE Visionなど パートナーブランド Harting Amphenolなど ハーネスメーカー 協力会社

次のスライドをお願いいたします。6 ページです。

少しここから2枚のスライドで分野・機能の取組みをご紹介します。

左サイド、コンシューマ市場に対してでございます。この辺の成長が私どもの強みを生かすことになるわけでございますけども、さらに、評価ポイントとしてヒロセコリア、左サイドの一番下のところ、青い矢印が増強ポイントでございますが、今年の12月竣工予定で、従来のR&Dセンターをさらにパワーアップする計画をしております。

それから、センターのところに行きまして、自動車でございますね。自動車の一つのポイントは、お客様との信頼関係の構築になるわけですけども、この辺は、協豊会というのはトヨタの協力会でございますけれども、ここに今年度4月、加入が認められましたので、多くの企業の垣根を越えながら、異業種それから同業も含めて外の知を入れ込みながら、私どもなりに未来のモビリティの世界に貢献をしたいと考えております。

それから、下のところに行きまして、新郡山工場、この6月で竣工式を迎えます。従来比約3倍近いスペース、それからキャパを確保する予定でございますけども、この新工場が私どものスマートファクトリーとしてさらにお客様との信頼関係構築の起点になりたいと思ひ展開をしております。

それから、産機市場は非常に裾野が広いですので、そういう面ではいろんなお付き合いをして、各団体との連携等も含めて進め、さらに次世代の土台の構築に展開をしていきたいと思っております。

各分野・機能の取り組み (2/2)

HRS

生産技術の基盤強化

岩手県盛岡市に新設「東北アドバンス・テクノロジーセンター(TATセンター)」が、2024年3月に操業開始。



TATセンターの機能

1. 生産設備におけるソフトウェア技術力の強化
2. リードタイム短縮を目指した設備設計のハブ拠点
3. 最先端の生産技術エンジニアの育成
協力会社も含めて技術を学び、“共創の世界”を構築

建屋概要
敷地面積：6,983㎡ (2,116坪)
建築面積：2,092㎡ (634坪)
構造：鉄骨平屋建て
電力：自家発電として太陽光発電 40kW + 外部調達により再生可能エネルギー100%

高度な人材の雇用を創出、世界に挑戦する技術者集団の育成に貢献

スライド、次、お願いします。

それともう一つ、3月に盛岡に東北アドバンスト・テクノロジーセンターが完成できました。従来からお伝えしておりますが、ここを起点に私どものモノづくりのキーとするところ、さらに、生産技術力のコア機能として展開、それから人財の育成も含めて、生産技術力・製造技術力の強化・注力に進みたいと思っております。

2024年度方針



<<< 2024 年度 >>>

▶ **「先見力・感知力と推進力」を強化し、回復そして前進する**

<特なる強化ポイント>

〈1〉 技術開発力・商品力 <差別化> (顧客提案～設計・量産) 〈2〉 “モノづくり力” (現場改善&製造改革) 〈3〉 人財育成 (継続：深化元年の実行)	}	継続成長・進化
--	---	----------------

▶ **“各々+チーム・組織が能力UP”、深化・進化する**

<<< 英知をつなげる小さな会社 >>>

【HRS目指す姿】“商品力とモノづくり力”で勝負するHRSグループ

© 2024 HOKURAI ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

8

8 ページお願いします。

24 年度の方針ということでまとめた 1 枚のスライドでございます。従来と同じように、先を見ての先見力、感度を上げての感知力ということでございますけども、24 年度は新たにここに推進力を挙げております。

年度計画ではいろいろな戦略を構築していますが、やり切らないと意味がないですので、やり切る力、実行力が 24 年度のキーかなと思っております。これらのキーワードを通して、さらに前進する企業でありたいと思っております。

次のページから、鎌形より説明をさせていただきます。

中期基本方針(2024-2027年度)

株主還元方針を改定

株主資本配当率(DOE) : 5%

継続安定成長と高収益を掲げるヒロセ電機グループとして、
配当の安定的増加を目指し、単年度業績の影響を受けにくい
株主資本配当率(DOE)を株主還元指標として採用。

2027年度：営業利益25%、ROE10%の安定的達成を目指す



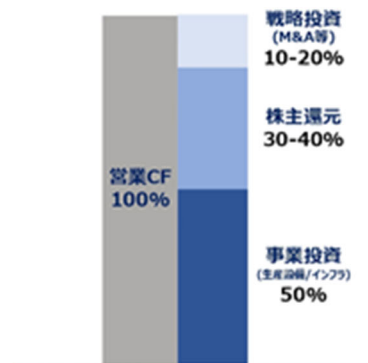
※本方針については下記の場合には見直しを行う場合があります。
(1)予期せぬ急激な環境変化(紛争、自然災害、感染症等)
(2)巨額のM&Aの資金投入が必要となった場合

© 2024 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

中期キャッシュ アロケーション

3本柱の次なる柱を育てるため、既存事業以外の戦略投資を
計画。投資規模に応じたアロケーションを行う。

2024-2027年度累計イメージ



9

鎌形：ヒロセ電機の鎌形です。

9 ページ、資本政策について少し触れさせていただきたいと思います。

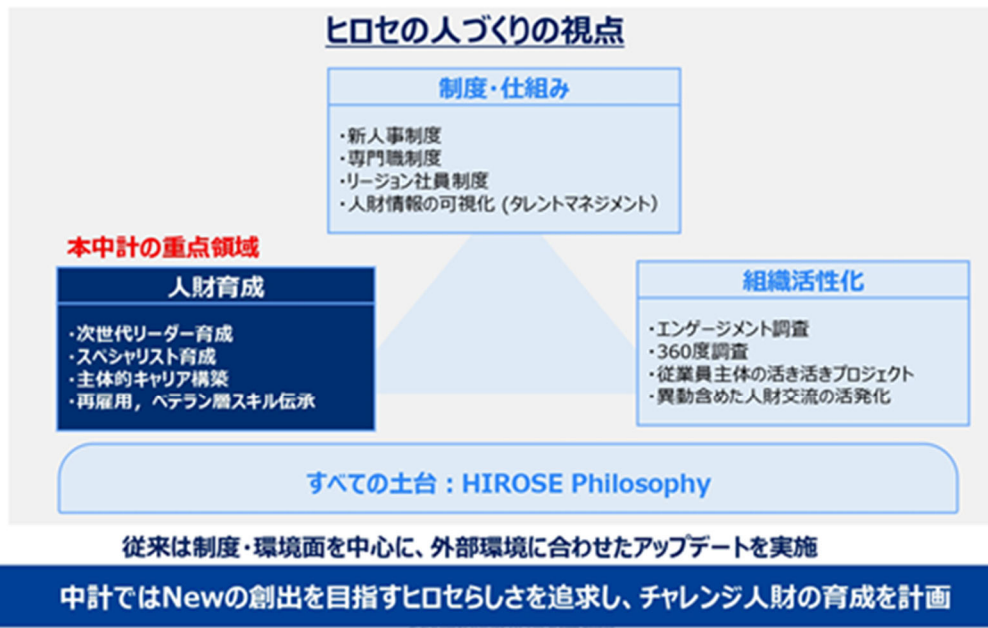
2025 年まで配当性向 50%を掲げてまいりましたが、1 年前倒しで、この還元のところをアップデートさせていただきました。

2024 年から 2027 年度までの間、株主資本配当率 DOE を 5%と掲げて、これを株主還元方針とさせていただきますと思っています。理由といたしましては、継続安定成長と高収益を掲げるヒロセ電機グループとして、配当も安定的に増加を目指すということでございます。

ただし、2027 年度、営業利益 25%、ROE10%の安定的達成を目指すことについては継続、掲げてまいります。

右側、キャッシュフローのアロケーションのイメージでございます。24 年から 27 年度までの累計として捉えていただければと思います。

基本的には、将来の投資に向けて再投資にできるだけ使いたいと思っています。ここをおよそ 50%程度、生産設備やさまざまなインフラに投資をし、これまでお話をしております戦略投資を、M&A 等でございますけれども、10%から 20%という形で置かせていただいております。残りの部分を還元に使いたいということでございます。



10

次のページをお願いいたします。

人財育成・開発の強化でございます。これは以前、2022 年、ヒロセ電機グループとして人づくりに力を入れると宣言をさせていただきました。

これまで、中央の制度・仕組みのところ、および右側の組織活性化の仕組みということで、さまざまな施策をトライしてまいりました。2024 年度以降、ここから中期的に、人財育成に注力をしたと思っています。

次世代リーダー育成やスペシャリスト育成、主体的キャリア構築、再雇用およびベテラン層のスキルの伝承等、力を入れていくことによって、中期的に新しい利益創出を目指すヒロセらしさを追求するヒロセ人、チャレンジ人財の育成を進めたいと思っています。

2027年度 数値目標

Scope1,2 排出量 60%削減 (2021年度比)

(t-CO₂)



再生可能エネルギー導入後も“追加性”をもつ質の高い電源へのシフトを推進。
一関工場では2024年3月に地域最大規模となるソーラーカーポートを設置。従業員のマイカー雪下ろしの負担軽減も狙う。



【一関工場 (岩手県)】

再生可能エネルギー導入を進め、本中計期間において目標達成を計画

© 2024 HORISE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

11

次のページをお願いいたします。

カーボンニュートラルへの取組みでございますけれども、2027年度 Scope1、2、トータルの排出量 60%削減を掲げさせていただいております。真ん中のグラフにありますとおり順調に削減をしてきておりまして、23年度もほぼほぼ達成しております。この先 27 年度に向けて計画的に進めてまいります。

従業員エンゲージメント強化

ヒロセ電機は2023年12月より駒澤大学・陸上競技部と スポンサー契約を締結いたしました。
それは駅伝競走で個々の選手がチームのために「力強くタスキをつなぐ姿」と、
「つなぐことを生業とする私たち」を重ね合わせたからです。
つなぐことの重要性を知り、つなぐことで未来を描く企業として、社員一丸となって応援していきます。



従業員エンゲージメントの向上

- ・監督、選手との交流会等イベント実施

健康経営の推進

- ・選手とのランニング会実施
- ・スポーツウェルネス研修の開催



採用ブランディング

- ・メディアでの露出による知名度向上

人財採用強化、組織活性化により継続安定成長

© 2024 HORISE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

12

次のページをお願いします。

もう1点、従業員エンゲージメントの視点で、ヒロセ電機グループは2023年12月より駒澤大学陸上競技部とスポンサー契約を締結いたしました。これは健康経営を掲げているヒロセグループとしてスポーツウェルネス等を企業経営の中に取り込んでいきたいということと、もう一つは「力強くタスキをつなぐ姿」ということで、私どもコネクタビジネス、「つなぐことを生業とする」ということで、このイメージが合致したということでございます。

BtoBのサプライヤーですので、駒澤大学様とスポンサー契約をすることによって、メディアでの露出による知名度アップ、これによって採用および企業ブランディングにつなげたいと考えておりまして、この点でも人財採用強化、組織活性化によるヒロセグループの安定成長を目指したいと思っております。

私からの報告は以上でございます。

山田：資料に沿った説明は以上となります。

免責事項

本資料には、ヒロセ電機の現時点における予測に基づく記述が含まれています。これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、当社における実際の業績と異なる恐れがあります。ご承知おき下さい。